

令和6年奥能登豪雨災害を踏まえた奥能登地区流域治水対策検討部会（第1回）
議事概要

1. 日時：令和6年11月28日（木）14:00～16:00

2. 場所：石川県庁行政庁舎14階1405会議室

3. 出席者：別紙「出席者名簿」の通り

4. 議題：

- 1) 「検討部会」の設置について
- 2) 令和6年奥能登豪雨による被災状況について
- 3) 今後の取り組みについて
- 4) 意見交換

5. 開会(挨拶：石川県土木部長)

今回の豪雨災害は、地震の復旧途上にあつた中での豪雨災害ということで、地震と豪雨の複合災害であるとよく言われている。地震と豪雨での二重の被災となつたことを踏まえ、早期の復旧復興を進めるとともに、今後も起こり得る豪雨災害の被害を軽減するため、流域内の関係者が連携した取り組みを緊急的かつ一体的に進める必要があると強く感じられる。

また、今回の災害の特徴として、地震と豪雨の複合災害という以外にも、崩れた土砂、流木が河川に溜まり、その結果、氾濫被害が大きくなつたという点から、土砂災害と河川災害の複合災害という側面も持っていると考えている。

そのため、今後も流出する危険のある土砂、流木をいかに処理して、下流の河川の整備を進めるかという点で、森林の整備や砂防事業、それと河川事業が、これまで以上に連携して対策を行っていく必要があると強く感じている。

災害の教訓と皆様からいただいたご意見をもとに、ハード、ソフト両面から効果的な対策をしっかりと考えていきたい。

6. 議事概要

1) 「検討部会」の設置について

検討部会の設置について、資料1を用いて事務局から説明

2) 令和6年奥能登豪雨による被災状況について

ア 金沢地方気象台より、災害発生当日の気象状況について説明（資料2-1）

イ 輪島市より、輪島市内の被災状況等について説明（資料2-2）

ウ 珠洲市より、珠洲市内の被災状況等について説明（資料2-3）

エ 穴水町より、穴水町内の被災状況等について説明（資料2-4）

オ 能登町より、能登町内の被災状況等について説明（資料2-5）

カ 石川県土木部河川課より、今回の豪雨の状況、奥能登地区の特徴、県管理河川の被災状況等について説明（資料2-6）

キ 石川県土木部砂防課より、砂防関係の被災状況等について説明（資料2-7）

- ク 石川県農林水産部農業基盤課より、農地・農業用施設の被災状況等について説明（資料 2-8）
- ケ 石川県農林水産部森林管理課より、林地の被災状況等について説明（資料 2-9）
- コ 北陸地方整備局 河川部より、直轄施工・権限代行箇所に対応状況について説明（資料 2-10）

3) 今後の対策について

事務局より、今後の取り組みや検討スキーム、参考事例について説明（資料 3）

4) 意見交換

〈輪島市〉

- ・今後整理すべき点は、多いかと思うが、輪島市がどのような情報を発信していいのかといったところを相談していきたい。

〈珠洲市〉

特に意見なし。

〈穴水町〉

- ・特に意見なし。

〈能登町〉

- ・広域的な河川の治水対策を各機関と連携しながら検討を行っていただければと思う。

〈北陸地方整備局 河川部〉

- ・河川の領域それから砂防の領域といったところで被害が生じている。
- ・関係機関が連携し協議していくことが重要であり、部会を通じて個別にやり取りなどが発生する機会もあるかと思うが、しっかり連携をして欲しい。

〈北陸地方整備局 能登復興事務所〉

- ・河北郡市の時の様な豪雨災害を踏まえた計画をしっかりと作っていただきたい。

〈近畿中国森林管理局 石川森林管理署 奥能登地区山地災害復旧対策室〉

- ・今回の豪雨災害時には、我々の事業実施箇所においても土砂流出などの被害が発生しており、予算確保しながら継続的に復旧を行っているところである。
- ・各地域においても現在応急対策を実施しており、一部地域では、もう既に本体工事に着手しているような状況である。
- ・引き続き、関係機関と連携を図りながら早期復旧について取り組んでいきたい。

〈国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センター金沢水源林整備事務所〉

- ・河川や林道等の復旧が進まないと、被災を受けた造林地までたどり着けないといったところであるが、今後も各機関と連携を密にして、水害に強い森林整備を協力しながら実施していきたい。

<気象庁 金沢地方気象台>

- ・今後も行政機関等に早めの段階で情報提供をしていきたい。
- ・線状降水帯などの予測精度向上に取り組み、防災気象情報の高度化等をしていきたい。

<石川県 危機管理監室>

- ・奥能登の2市2町を中心にハザードマップの策定状況はどのような状況になっているのか。

(石川県土木部河川課回答)

- ・県の管理する河川については、ハザードマップ作製のもととなる洪水浸水想定区域の指定を昨年5月までに終えている。
- ・洪水浸水想定区域の指定後、各市町にハザードマップの作製を急いで頂いていたが、本年1月1日の地震にて、地形の変状等があり作成作業が中断してしまっている。
- ・洪水浸水想定区域についても、特に奥能登の外浦側で地震による地形の隆起が発生し、その影響を受けた河川では、洪水浸水想定区域の見直し作業を進めている現状である。
- ・今回の流域治水の対策には、ハザードマップ等の更新といった点も含めて欲しい。
- ・特に洪水浸水想定区域については、地形を考慮した見直しというものも必要になってくると思われる。そういったことも計画的にやって欲しい。
- ・市町の方でもハザードマップを洪水浸水想定区域に合わせて作成し、市民、町民の方にしっかり周知するということが必要となる。
- ・現在仮設住宅に住んでいる方は、普段とは違う所に住んでいる人が相当数いると思われるため、ハザードマップを今一度しっかり周知しておくことが重要である。
- ・気象台から線状降水帯などの予測精度の向上といった話もあったが、市町の方は、避難指示について空振りを恐れず出していき、避難指示が出たら住民の方は、その指示に基づいて素早く避難をしていただくといった、基本的なことを今一度確認していくことが重要である。

<石川県 農林水産部>

- ・田んぼダム等の取組は、市町や農家等の協力が必須である。関係機関と連携して進めていきたい。

<石川県 土木部>

- ・今回の奥能登豪雨では、地震に伴う災害箇所と豪雨に伴う災害箇所を比較しても、まさに地震で傷ついて雨が降ってほしくない箇所に強い雨が降ってしまったことが、複合災害というところの実態でないかと思う。
- ・従って対策は、地震と今回の豪雨の二つを相手にしなければいけなく、これが他の日本各地で起こる豪雨災害と違うところであり、大変なところであると実感をしている。

- ・豪雨のあった9月21日の7時に土砂災害警戒情報が発表されているが、そのわずか2時間後の9時7分に顕著な大雨に関する情報が発表されており、8時過ぎには、強い雨のピークが来ている状況である。そう考えると、7時に土砂災害警戒情報が発表されて8時過ぎには、おそらく各地で土砂災害が発生している可能性があるか、もしくは土砂災害が発生していなくても、例えば小さい沢があふれたりするなど、避難するには、困難な状況になっていたのではないかとということが想像される。
- ・激しい降雨から短時間で甚大な災害が発生してしまい、避難する時間が限られてしまったというのが今回の災害の一番の特徴ではないかと思う。
- ・奥能登地区の地形の特徴を踏まえると今回の豪雨のような状況下では、避難できる時間が非常に限られており、避難のチャンスを逃すと大変なことになるということをいかに理解していただくかが、ソフト対策として重要となってくる。
- ・河原田川や町野川等の改修がある程度進んでいる河川については、堤防の破堤や越水といった被害は限定的であったが、河川の勾配が急で流域面積も小さく対策が難しい、塚田川や鈴屋川、南志見川や珠洲大谷川といった河川のハード対策をどうしていくかが、今後の課題であると感じている。
- ・河川の勾配が急で流域面積も小さいといった、奥能登地区の地形的ハンディは、河川改修をやっても抜本的に改善することは難しいため、やはりハード、ソフトの対策を組み合わせながら、関係機関と連携し効果的な治水対策を行っていくことが重要なポイントであると考えている。

7. 閉会（挨拶：輪島市）

今後部会において、被災要因の検証や分析、治水対策のとりまとめについて議論を深めていくことはもとより、土木施設の復旧や強靱化を図る一方で、昨今の線状降水帯等の気候変動を意識した整備が、今後の治水対策にとって大切になるものと考えており、今後とも関係各位の皆様には、支援の方をお願いしたい。